

公益目的事業 1（平和推進事業）

被爆体験継承普及事業

1 修学旅行生への被爆体験講話等

平和学習のために来広した修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者等を対象に、被爆体験講話を行うとともに、原爆記録ビデオ等を上映しました。

また、夏休み期間中には、事前予約不要かつ無料の講話を開催しました。



被爆体験講話の様子

（1）被爆体験講話実施状況

（単位：人）

区 分	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
小 学 校	(683) 47,087	(696) 50,455	(632) 44,499
中 学 校	(311) 32,695	(237) 24,892	(260) 28,118
高等学校	(148) 19,055	(145) 20,639	(126) 16,467
そ の 他	(703) 14,626	(788) 17,799	(726) 17,730
計	(1,845) 113,463	(1,866) 113,785	(1,744) 106,814

（ ）内は件数

（2）申込方法

- ① 受 付 希望日の 1 年前の当日から受け付けます。オンライン予約システムでご予約ください。

● 被爆体験講話等オンライン予約システム

URL : <https://www.hpmm-testimony.jp/>

- ② 問合せ先 (公財)広島平和文化センター 平和文化企画課
〒730-0811 広島市中区中島町 1 番 2 号
受付専用電話 : (082) 541 - 5544
受付時間 : 9 時～17 時

[休館日 (12 月 30 日及び 31 日ほか) は、受け付けておりません。]

- ③ 会 場 ● 広島平和記念資料館東館 メモリアルホール
● 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 研修室 1・2、研修室 3

- 広島国際会議場 平和学習室、展示室サクラ
- ※ 会場の定員については、オンライン予約システムでご確認ください。
- ④ 実施時間
 - 次の時間帯（60 分間）からお選びください。
 - 9:30～10:30、11:00～12:00、13:00～14:00、14:30～15:30、
16:00～17:00、17:00～20:00 の間のいずれか 60 分間
 - ※ ③の会場での受講は 17 時までです。下線を引いた時間帯は、他の会場を確保された場合のみです。

- ⑤ 受講費用
 - なし
 - 令和 6 年（2024 年）4 月 1 日の講話から、本財団が委嘱する被爆体験証言者が広島市内で実施する被爆体験講話の講師謝礼金*が無料（本財団が負担）となりました。
 - なお、被爆体験伝承講話・家族伝承講話の講師謝礼金については、これまでと変更なく、無料（本財団が負担）です。
 - ※ 申込者（聴講者）が手配する会場への派遣も含みます（謝礼金以外の会場費などの運営費用はご負担ください）。なお、会場のみで、（公財）広島平和文化センター以外の団体に講師を依頼する場合は、謝礼金や交通費などについては講師と直接調整をお願いします。

広島市外での実施については国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にお問い合わせください。

〔国立広島原爆死没者追悼平和祈念館〕

問合せ先電話（082）207－1202

被爆体験伝承者等派遣事業ホームページ

<https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/project/successors/>

（３）被爆体験証言者（本財団委嘱）名簿

令和 8 年 7 月 14 日現在・50 音順 敬称略

氏 名	被 爆 時 の 状 況
あまの こうきち 天 野 幸 吉	6 歳の時、爆心地から 1.6km 離れた自宅で、家族と朝食を食べていたときに被爆。
あらい しゅんいちろう 新 井 俊 一 郎	中学 1 年生であった 13 歳の時、食糧増産で農村支援出動先の東広島市から広島へ向かう途中、原爆炸裂の閃光を見て広島市内へ入った。
いいだ くにひこ 飯 田 國 彦	3 歳の時、爆心地から 900m 離れた母の実家で、母に呼ばれて家の中に入った時に被爆。
いしばし きくこ 石 橋 紀 久 子	5 歳の時、爆心地から 2.2km 離れた自宅の座敷にいたときに被爆。
いとう まさお 伊 藤 正 雄	4 歳半の時、爆心地から 3.2km 離れた自宅前の道路で、三輪車に乗って遊んでいるときに被爆。

うさみ せつこ 宇佐美 節子	3歳の時、爆心地から4.1km離れた自宅の縁側で遊んでいるときに被爆。
おおた かねじ 大田 金次	幼稚園児であった5歳の時、爆心地から800mの自宅で、幼稚園に行くため玄関を出たときに被爆。
おおはし かずこ 大橋 和子	女学校1年生であった12歳のとき、被爆地から1.5km離れた動員先で建物疎開作業中に被爆。
おぐら けいこ 小倉 桂子	小学校2年生であった8歳の時、爆心地から2.4km離れた自宅近くで被爆。被災し、避難してきた被爆者たちの悲惨な光景を目の当たりにした。
かさおか さだえ 笠岡 貞江	高等女学校1年生であった12歳の時、爆心地から3.5km離れた自宅で被爆。
かじもと よしこ 梶本 淑子	高等女学校3年生であった14歳の時、爆心地から2.3km離れた動員先の工場で、飛行機のプロペラ部品を作る作業中に被爆。
かじや ふみあき 梶矢 文昭	小学校1年生であった6歳の時、爆心地から1.8kmの分散授業所で朝の掃除をしているときに被爆。
きしだ ひろこ 岸田 弘子	6歳の時、爆心地から1.5km離れた自宅で、トイレの中で被爆。
きりあけ ちえこ 切明 千枝子	高校1年生の15歳の時、病院に向かう途中、爆心地から2.5km離れたところで被爆。
くわばら かずゆき 桑原 一之	国民学校2年生であった7歳の時、爆心地から約2km離れた、分散授業所となっていた寺の本堂で朝の掃除をしていたときに被爆。
こうの きよみ 河野 キヨ美	女学校2年生であった14歳の時、爆心地から35km離れた郊外の自宅で広島市への原爆投下を知る。翌日、2人の姉を探しに市内に入った。
こんどう やすこ 近藤 康子	4歳の時、爆心地から3.5km離れた川の中で、友達と遊んでいたときに被爆。
さいき みきお 才木 幹夫	13歳の時、爆心地から2.2km離れた自宅で、外出するため靴を履こうとしたときに被爆。
さこだ いさお 迫田 勲	7歳の時、爆心地から北西に約19km離れた山中で、屋外での作業後に放射性物質を含んだ「黒い雨」に打たれた。その後、2022年4月に被爆者として認定された。
さど いくこ 佐渡 郁子	小学2年生であった7歳の時、爆心地から870m離れた祖母の家の庭で、妹と砂遊びをしていたときに被爆。
たきぐち ひでたか 瀧口 秀隆	4歳の時、爆心地より1.8kmの自宅で朝食後、外にいたら飛行機の音がしたため急いで帰り 玄関の引戸を閉めようとした時に被爆。
つじ せいじ 辻 靖司	3歳の時、被爆した兄を探すため、母親に背負われて焼野原になった広島市内に入った。
てらまえ たえこ 寺前 妙子	高等女学校3年生であった15歳の時、爆心地から550m離れた動員先の広島中央電話局で、2回目の作業にかかるため廊下に整列していた時に被爆。
ないとう しんご 内藤 慎吾	6歳の時、爆心地から1.7km離れた自宅で、庭にある防空壕 ぼうくうごう の入口で弁慶蟹 べんけいがに を捕まえようとしてやがんだときに被爆。
パク ナムジュ 朴 南珠	女学校1年生であった12歳の時、妹と弟を疎開先まで送っていくために乗った路面電車が、爆心地から1.9km離れたところにいたときに被爆。

はらだ ひろし 原 田 浩	幼稚園児であった 6 歳の時、爆心地から 2km 離れた広島駅のプラットホームで列車を待っていたときに被爆。
ひろなか まさき 廣 中 正 樹	5 歳の時、爆心地から 3.5km 離れた自宅前の小川で遊んでいたときに被爆。
やはた てるこ 八 幡 照 子	8 歳の時、爆心地から 2.5km 離れた自宅から出掛けようとした時に裏庭で被爆。
やませ じゅんこ 山 瀬 潤 子	8 歳の時、爆心地から 2.2km 離れた自宅で被爆。
やまもと さだお 山 本 定 男	中学校 2 年生であった 14 歳の時、爆心地から 2.5km 離れた東練兵場で、畑の草取り作業のため集合していたときに被爆。
やまもと れいこ 山 本 玲 子	小学 1 年生であった 7 歳の時、爆心地から 4.1km 離れた学校の校庭で、飛行機を見上げていたときに被爆。
わきます ともこ 脇 舛 友 子	3 歳の時、母の実家がある安芸高田市から呉市の自宅へ汽車で戻る途中、原爆投下により汽車が止まり、母に背負われ、線路沿いに広島市内へ入った。

（４）次世代と描く「原爆の絵」

平成 16 年度（2004 年度）から「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。「原爆の絵」は、被爆体験証言者が修学旅行生等への被爆体験講話の際などに活用し、視覚によって体験内容の理解を深めてもらうことに役立てるとともに、被爆当時の広島の惨状を描いた絵画として、原爆被害の実相を後世に伝えるための貴重な資料となります。さらに、絵の制作を通して、若い世代の人たちが被爆体験証言者の思いに触れることにより、平和意識の高揚を図り、次世代に被爆体験を継承していくことにつながります。

令和 7 年度は、広島市立^{もとまち}基町高等学校普通科創造表現コースの生徒 14 人が、7 人の被爆体験証言者等とともに、「原爆の絵」の制作に取り組み、令和 8 年 6 月に、14 点の作品が完成しました。

これで、「原爆の絵」は合計 236 点となりました。

2 被爆者証言ビデオの制作

被爆体験者の高齢化が進む中、被爆体験者の証言を映像に収め、被爆体験の継承に活用することを目的とし、昭和 61 年度（1986 年度）から被爆者の証言ビデオを制作してきました。

令和 7 年度は、2 人分の証言ビデオを制作しました。平成 7 年度（1995 年度）に制作した在韓被爆者の証言ビデオ、及び平成 17 年度（2005 年度）と平成 18 年度に制作した聴覚障害のある方の手話による証言ビデオを含め、総本数は 1,324 本になりました。



証言収録風景

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

種 類	内 容	本 数
オリジナル版	カラー 約 20 分 (約 20 分×1 人)、家庭用 VHS・DVD	1,153 本
ダイジェスト版	カラー 約 30 分 (約 10 分×3 人)、家庭用 VHS・DVD	171 本

3 被爆体験証言者交流の集いの運営

広島で被爆体験の証言活動などを行っている団体間の情報交換と研修を目的として、昭和 62 年 (1987 年) 10 月 9 日に「被爆体験証言者交流の集い」(事務局一本財団)が発足しました。

(1) 全体会議の実施

開 催 日 令和 8 年 3 月 12 日 (木)

場 所 広島平和記念資料館東館地下 1 階 会議室 (1)

主な内容 令和 7 年度被爆体験講話等実施状況及びこども向け平和学習展示の整備等に関する報告、団体相互の情報交換等

(2) 構成団体一覧表 (15 団体)

令和 8 年 6 月 15 日現在

広島平和教育研究所	原爆被害者相談員の会
広島県原爆被爆教職員の会 (活動休止中)	平和のためのヒロシマ通訳者グループ
広島県高等学校原爆被爆教職員の会	広島医療生活協同組合原爆被害者の会
韓国原爆被害者対策特別委員会	広島県被爆二世団体連絡協議会
広島県朝鮮人被爆者協議会	広島被爆者援護会
広島県原爆被害者団体協議会 (被爆を語り継ぐ会)	被爆証言の会
広島県原爆被害者団体協議会	ヒロシマを語る会
	公益財団法人広島平和文化センター

4 平和文化センターインターンシップ事業

本財団は、平成 15 年度 (2003 年度) から、大学生等を実習生として受け入れるとともに、中・高等学校における総合的な学習の一環として職場体験学習を希望する学校の生徒の受入れにも積極的に協力しています。

実習生に広島平和記念資料館等で業務を経験してもらい、被爆地ヒロシマについて理解を深める機会を提供することは、次世代への被爆体験の継承及び平和意識の醸成に資することから、平成 20 年度 (2008 年度) からは「平和文化センターインターンシップ事業」として実施しています。

【事業の概要】

- ① 主 な 業 務 平和の推進や国際交流・協力に関する業務、平和記念資料館での来館者対応 等
- ② 主な業務場所 平和記念資料館、広島国際会議場、原爆死没者追悼平和祈念館 等
- ③ 令和 7 年度の受入れ実績

学校名等	受入人数	受入期間	実習実施担当課
日本ダウン症協会	1	8/27,28,3/23	経営管理課
広島修道大学	5	8/1～8/27 (うち 5 日間)	平和文化企画課、平和学習課、追悼平和祈念館、国際市民交流課

5 ヒロシマ・ピースフォーラムの開催

市民に、「平和の原点」としての「ヒロシマ」を見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探究する機会を提供するため、「ヒロシマ・ピースフォーラム」を開催しています。

令和 7 年度は、大阪空襲をテーマとしたピースおおさか館長による講演のほか、被爆体験証言応答装置の紹介、被爆体験記等の朗読会を実施しました。

開催日 令和 8 年 2 月 7 日（土）

場 所 広島平和記念資料館 メモリアルホール

参加者 157 人

6 国内原爆・平和写真展用資料の普及・活用

昭和 53 年度（1978 年度）から、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルを、また、昭和 57 年度（1982 年度）から同ポスターを、無料で全国の学校・各種団体等に貸し出しています。

貸出件数は、15 頁「12 原爆・平和展、平和学習用資料の普及・活用」の「(1) 貸出件数」をご覧ください。

7 平和学習講座

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めてもらうとともに、身近なレベルで平和について考え、自ら平和に取り組む意識を醸成するため、学校等に講師を派遣し、平和学習講座を行っています。

講座は、写真や市民が描いた原爆の絵、図表、イラスト、核実験の映像、模型等により原爆被害の実相や核兵器をめぐる世界の状況を説明するとともに、熱線で表面が泡状に溶けた瓦に実際に触れて原爆被害を理解していただくものです。



講座の様子

令和 7 年度は、93 回（小学校 48 回、中学校 31 回、高等学校 2 回、その他 12 回）講座を実施しました。

8 平和記念資料館平和学習ハンドブック等の作成

修学旅行生等が、平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」等を作成し、配付しています。

【令和 7 年度作成部数】

広島平和記念資料館 平和学習ワークブック	小学生用	60,000 部
	小学生指導者用	5,000 部
	中・高校生用	50,000 部
広島平和記念資料館 学習ハンドブック	小学校 4 ～ 6 年生用	110,000 部
	中・高校生用	90,000 部
平和記念公園めぐり		120,000 部

9 国内原爆・平和展の開催

原爆被害の実相を伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた世論の醸成を図ることを目的として国内各地の都市で原爆・平和展を開催しています。

令和 7 年度は、東京都杉並区と石川県金沢市の 2 都市で開催し、原爆で犠牲になった方の遺品等の被爆資料、被爆の実相と核兵器の現状を伝える写真パネル、高校生と被爆体験証言者が共同で描いた原爆の絵などを展示しました。また、展示の開催に併せ、本財団被爆体験証言者である瀧口秀隆さんたきぐちひでたかを杉並区に、山瀬潤子さんやませじゅんこを金沢市に派遣し、自身の被爆体験を語っていただきました。



原爆・平和展会場の様子（金沢市）

実施の概要

【杉並区】

期 間 令和 7 年 8 月 2 日（土）～8 月 15 日（金）（14 日間）
場 所 杉並区役所 1 階ロビー及び 2 階区民ギャラリー
来場者数 4,487 人

【金沢市】

期 間 令和 7 年 8 月 7 日（木）～8 月 15 日（金）（9 日間）
場 所 金沢駅東もてなしドーム地下広場
来場者数 2,526 人

10 国連大学でのヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスター展の開催【新規】

被爆 80 周年を期に、広く被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、長崎市と共同で東京都においてヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスター展を開催しました。

期 間 令和 7 年 7 月 11 日（金）～8 月 17 日（日）

場 所 国際連合大学

来場者数 1,200 人

11 大阪・関西万博に合わせたヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催【新規】

国内外から多くの人を訪れる大阪・関西万博を好機と捉え、同博覧会開催期間中に大阪市内において原爆・平和展を開催しました。

期 間 令和 7 年 8 月 22 日（金）～12 月 27 日（土）

会 場 ピースおおさか（公益財団法人大阪国際平和センター）

来場者数 約 33,600 人

12 原爆・平和展、平和学習用資料の普及・活用

原爆展の開催や修学旅行の事前学習等の平和学習に活用できるポスターや、平和に関する各種ポスター、絵、映像資料（DVD）等を、全国各地の学校、各種平和団体及び自治体等に貸し出しています。

（1）貸出件数（令和 7 年度）

（単位：点）

貸 出 資 料	点 数
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター	92
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル	50
市民が描いた原爆の絵（複製）、各種ポスター、絵本セット等	472
DVD 等映像資料	454
合 計	1,068

（2）貸出方法

- ① 使用料は無料です。
- ② 運搬等（発送・返却）にかかる経費は使用者の負担となります。ただし、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター、同パネルについては、返却にかかる経費のみ使用者の負担となります。
- ③ 貸出希望日の 1 年前の同日から受け付けます。電話での申込を受付後、申込確認書を送付します。

〔申込・問合せ先〕

・ 申込

資料貸出受付窓口（広島平和文化センター平和文化企画課内） TEL（082）541 - 5544

・ 内容等に関する問合せ

広島平和文化センター 平和文化企画課 TEL（082）242 - 8872

13 被爆体験伝承者等による伝承講話の実施

広島平和記念資料館の来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者及び家族伝承者による講話を定時開催しています。また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で伝承者を派遣し、伝承講話を行っています。

※ 被爆体験伝承者は平成 27 年度から、家族伝承者は令和 5 年度からそれぞれ活動を開始しました。

（１）定時講話

① 実施状況（令和 7 年度）

（ ）は家族伝承・内数

区 分	件 数	聴講者数
日本語での講話	1,066 件（149 件）	12,032 人（1,645 人）
英語での講話	355 件（29 件）	4,978 人（518 人）
計	1,421 件（178 件）	17,010 人（2,163 人）

② 日時・会場（通常時）

日 時 原則、休館日を除く毎日

10:00～11:00（日本語）、11:30～12:30（日本語）

13:00～14:00（英語）、14:30～15:30（日本語）

※ 都合により、変更となる場合があります。

会 場 広島平和記念資料館東館地下 1 階 特別展示室

（２）派遣講話（広島市内）

① 実施状況（令和 7 年度）

（ ）は家族伝承・内数

区 分	件 数	聴講者数
日本語での講話	551 件（74 件）	42,359 人（5,273 人）
英語での講話	122 件（30 件）	2,573 人（635 人）
計	673 件（104 件）	44,932 人（5,908 人）

② その他

申込方法は、8 頁「1 修学旅行生への被爆体験講話等」の「（２）申込方法」をご覧ください。

(3) オンライン伝承講話

実施状況（令和 7 年度）

区 分	件 数	聴講者数
日本語での講話	1 件	15 人
英語での講話	1 件	20 人
計	2 件	35 人

1 4 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化

被爆から長い時間が経過している状況に対応するため、平成 28 年度（2016 年度）から広島平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化を行っています。

令和 7 年度は、前年度に引き続き、①被爆資料の収集・整理、②展示室及び収蔵庫の環境調査及び環境改善、③資料の劣化状況調査及び展示・収蔵方法の改善、④資料の保存措置とレプリカ作成、⑤映像のデジタル化、⑥学芸員の資料保存専門研修受講等を行いました。

また、資料館が所蔵する被爆直後に撮影された写真の原板について、日本写真保存センターを経由し、国立映画アーカイブ相模原分館^{さがみはら}のフィルム保管庫へ収蔵しました。

(1) 保存措置

被爆から 80 年が経過した資料の劣化を防ぎ、実物資料の展示を将来にわたって続けられるよう、保存措置の強化に努めています。

本館では、「絵筆にこめて」コーナーで原爆の絵の原画入替えを年 2 回実施し、「8 月 6 日の惨状」と「魂の叫び」等のコーナーで被爆資料の展示入替を年 1 回実施しています。

また、写真資料の保存方法を改善するため、被爆後間もない時期に撮影された写真フィルムの原板を高精細デジタルデータ化するとともに長期保存用高品質プリントの作成を行っています。

さらに、定期的に被爆資料の劣化状況の調査や収蔵庫及び展示室の環境調査を行っています。結果を踏まえ、保存方法の切り替えやレプリカ製作と修復、収蔵庫及び展示室内での虫菌害対策を含めた環境改善の実施や、気密性の高い展示ケースを順次導入しています。

(2) デジタル化

広島平和記念資料館では、昭和 61 年度から広島県内に在住している被爆体験を有した人を対象に被爆者証言ビデオを制作しており、令和 7 年度末までで 1,153 本を所蔵しています。（11 頁「2 被爆者証言ビデオの制作」参照。）

これまでに制作したビデオのデジタル化や、テキストデータ化・多言語化（日本語・英語字幕挿入）を進めており、館内の証言ビデオコーナーで順次視聴できるようにしています。また、インターネット公開の許諾が取れた証言ビデオについては、ホームページ（被爆者証言ビデオ：<https://hpmm-db.jp/testify/>）及び動画配信サイト（YouTube：<https://www.youtube.com/@hiroshimapeacememorialmuseum>）での公開も行っています。

15 広島平和記念資料館の企画展の実施

広島平和記念資料館は数多くの被爆資料を収蔵し、それらを常設展示することによって、来館者に人類史上最初の原爆投下による被害の実相、核戦争の悲惨さを伝えていきます。常設展を補完し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を希求する「ヒロシマの願い」への理解をさらに深めてもらうため、平成6年度（1994年度）から企画展を開催しています。実績は次のとおりです。

令和7年度までの企画展開催実績

年度	タイトル	期 間
平成6	開館記念収蔵資料展 ―平和の回廊―	6/1～6/30 30日間
	写真展 ―あるとき広島は―	3/1～4/20 51日間
7	被爆50周年資料館開館40周年記念 ―ヒロシマの軌跡―	7/15～8/27 44日間
	原爆ドーム世界遺産化展 ―（ユネスコへの登録申請時）―	10/1～10/13 13日間
8	収蔵資料展 ―あの日、そして灼けついた記憶―	7/20～9/1 44日間
	原爆ドーム世界遺産化展 ―（ユネスコへの登録決定時）―	1/29～2/28 31日間
9	きのご雲の下に子どもたちがいた ―おじいちゃん、おばあちゃんに聞く戦争のころのはなし―	7/19～8/31 44日間
	公園の下に眠る街、爆心地・中島地区	11/1～11/30 30日間
10	子どもたちの戦場 ―集団疎開、おとうさんおかあさんと離れて―	7/17～9/30 76日間
	銃後を支える力となって ―女性と戦争―	2/1～4/30 89日間
11	広島平和記念都市建設法制定50周年記念 焼け跡に響く子どもたちの声 ―焦土から平和都市へ―	7/7～9/30 86日間
	メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫」展 活字から見る占領下の日本 ―プレスコードと広島―	8/2～8/31 30日間
	ヒロシマを切り撮った眼	3/1～7/9 131日間
12	質問でつづるふしぎ発見 原爆 ―見えない放射線の被害―	7/19～10/16 90日間
	よみがえる歴史の記憶 ―一瞬に消え去った爆心の町―	3/16～7/9 116日間
13	2000年・2001年記念事業 サダコと折り鶴 ―一時を超えた生命の伝言―	7/19～12/16 151日間
	終戦後の子供のくらし ―メリーランド大学所蔵プランゲ文庫 「村上寿世記念児童コレクション」に探る―	9/1～9/28 28日間
	ヒロシマの証言 ―奪われた街・残されたもの―	3/1～7/10 132日間
14	焼け野原に人々を助けて ―薬も食べ物もない中で続けられた救 援活動―	7/18～12/1 137日間
	原爆の絵 ―市民の手によるヒロシマの記録―	3/5～7/6 124日間
15	原子爆弾ナリト認ム ―原爆投下後に行われた被爆調査の軌跡を追う ―	7/25～12/15 143日間
	似島が伝える原爆被害 ―犠牲者たちの眠った島―	3/3～7/11 131日間

16	動員学徒 ―失われた子どもたちの明日―	7/16～12/15	153 日間
	第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ	2/15～6/30	136 日間
17	被爆 60 周年資料館開館 50 周年記念 廃虚の中に立ちあがる ―平和記念資料館とヒロシマの歩み―	7/11～12/18	161 日間
	宮武甫・松本榮一写真展 ―被爆直後のヒロシマを撮る―	3/15～9/28	198 日間
18	託された過去と未来 ―被爆資料・遺影・体験記全国募集 新着資料より―	7/20～7/10	356 日間
	林重男写真展	2/15～7/17	165 日間
19	海外からの支援 ―被爆者への援助と込められた再建への願い―	7/25～10/31	99 日間
	菊池俊吉写真展 ―昭和 20 年秋・昭和 22 年夏―	2/14～7/15	153 日間
20	被爆建造物は語る	7/24～12/15	145 日間
	廃虚にフィルムを回す ―原爆被災記録映画の軌跡―	2/25～7/15	141 日間
21	広島平和記念都市建設法制定 60 周年記念 佐々木雄一郎写真展 第一部 平和を築く	7/18～12/15	151 日間
	広島平和記念都市建設法制定 60 周年記念 佐々木雄一郎写真展 第二部 平和を誓う	2/3～7/12	160 日間
22	広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館共同企画展 国民義勇隊 ―原爆被害を大きくした広島市の建物疎開―	7/16～12/15	153 日間
	こどもたちの見た戦争 ―はだしのゲンとともに―	2/4～7/11	158 日間
23	生きる ―1945.8.6 その日からの私―	7/15～12/14	153 日間
	広島、1945 ―写真が伝える原爆被害―	2/3～7/9	158 日間
24	基町 ―姿を変える広島開基の地―	7/13～12/12	153 日間
	君を想う ―あのとときピカがなかったら―	2/8～7/15	158 日間
25	はだしのゲン原画展 ―生きて生きて生きぬいて―	7/19～9/1	45 日間
31	市民が描いた原爆の絵―記憶と向き合う―	4/25～12/26	245 日間
令和 1	海外収集資料から見る広島原爆被害と復興	12/27～2/28 6/1～7/20 (2/29～5/31 は臨時休館)	計 112 日間
2	被爆 75 年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第一部 礎を築く―初代館長 長岡省吾の足跡	7/22～2/23 (12/14～2/7 は臨時休館)	計 161 日間
	被爆 75 年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第二部 8 月 6 日へのまなざし―資料を守り伝え続ける	2/27～7/18 (5/10～6/20 は臨時休館)	計 100 日間
3	焼け跡もの語り	9/17～2/13 (9/17～30、 1/13～2/13 は 臨時休館)	計 102 日間
	原爆と医療―救護活動から医学調査へ―	3/25～9/12	172 日間

4	爆心直下の町－細工町・猿楽町	9/16～3/21	計 185 日間
	広島戦災児育成所－子どもたちと山下義信－	3/24～9/11 (5/19～5/21 は臨時休館)	計 169 日間
5	新着資料展－令和 3 年度寄贈資料	9/14～2/27	計 165 日間
	ともだちの記憶	3/1～9/10	計 194 日間
6	新着資料展－令和 4 年度寄贈資料	9/13～2/25	計 166 日間
	ユネスコ「世界の記憶」登録候補 広島原爆の視覚的資料－1945 年の写真と映像	2/28～9/16	計 201 日間
7	新着資料展－令和 5 年度寄贈資料	10/9～2/1	計 116 日間
	被爆した東南アジアの留学生 一国を超えた友情－	3/27～9/8	計 166 日間

※再整備事業による改修工事のため、平成 25 年(2013 年)9 月から平成 31 年の全館オープンまで企画展は休止しました。

○ 令和 7 年度第 1 回企画展「新着資料展－令和 5 年度寄贈資料」

広島平和記念資料館には、被爆から 80 年を経た今でも、被爆者やその遺族の方々から、ご遺品や被爆にまつわる資料が寄せられています。

寄贈者の世代は親から兄弟姉妹へ、子から孫へと移り変わり、資料に託された思いは幾重にも重なって、届けられるようになりました。忘れたい、でも伝えたい原爆の記憶^{いのち}。そこには大切な人を想い、平和を願う寄贈者の思いが込められています。

本展では、令和 5 年度(2023 年 4 月～2024 年 3 月)に寄贈された 1,449 点から、126 点を紹介しました。

期 間 令和 7 年 10 月 9 日(木)～令和 8 年 2 月 1 日(日)

場 所 広島平和記念資料館東館 1 階 企画展示室

内 容 現物資料、原爆の絵、写真パネルなど約 126 点



正面看板

女学生の遺品となった名札が空に向かって光を放ち、次世代への継承を表現している。



来場者が思いをつづる付箋コーナー

○ 令和 7 年度第 2 回企画展「被爆した東南アジアの留学生 ―国を超えた友情―」

東南アジアを占領していた日本の政策によって来日した「南方特別留学生」は、昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日の広島原爆投下に遭遇し、負傷しあるいは仲間が犠牲となる困難に直面しました。

しかし、そうした困難にあっても、彼らは周りの人たちを励まし助け合いました。そこには、被爆前、元安川^{もとやす}近くにあった留学生の寄宿舍「興南寮」^{こうなん}で暮らしていた彼らと市民の間に深い交流の存在があったからでした。戦後、彼らが故郷に戻った後も交流は続き、世代を超えて現在まで続いています。

この企画展では、資料とあわせて関係者の証言も交えて、留学生たちの被爆の実態と市民との交流を紹介しています。彼らが、原爆が投下された困難な状況で仲間や市民らと過ごし、市民との間で現在まで続く交流の経緯や状況を伝える機会となっています。

期 間 令和 8 年 3 月 27 日（金）～9 月 8 日（火）

場 所 広島平和記念資料館東館 1 階 企画展示室

内 容 写真パネル、映像、現物資料など約 150 点



オマールさんから別れ際にもらった写真
くりはらめいこ
栗原明子寄贈



興南寮跡碑を訪れた留学生たち
平成 7 年（1995 年）8 月 6 日
はやかわゆきお
早川幸生寄贈

1 6 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク

第 32 回日本平和博物館会議（加盟館：10 館）に参加し、平和博物館の課題についての協議や情報交換を行いました。

期 間 令和 8 年 1 月 8 日（木）～9 日（金）

開催地 立命館大学朱雀^{すざく}キャンパス 中川^{なかがわ}会館

1 7 展示・収蔵資料等の調査研究

原爆・平和などに関わる各分野の資料の調査・収集、学術的考証・分析などの調査研究を進めてきた平成 10 年度（1998 年度）に発足した有識者で構成する「広島平和記念資料館資料調査研究会」は、調査研究体制見直しのため、令和 7 年 4 月から休会していますが、令和 7 年度も引き続き資料館の収蔵資料や展示環境に関する調査研究を実施しました。

○ 広島平和記念資料館の資料・環境調査研究

保存科学の専門家に広島平和記念資料館の資料の収蔵・展示環境について、調査研究を委託しました。

資料は、展示環境の温湿度変化に伴い、水蒸気を吸着したり放出したりします。資料をできる限り安定した状態で保存・展示し、資料の材質による吸放湿の特性を把握するため、令和 7 年度は、個々の被爆資料の吸放湿特性を把握することに向けて、基礎的なデータを収集するシステムを構築しました。